

2019年度 IGM 活動報告書

令和元年 10月25日(金) 18時30分～

都ホテル岐阜長良川 四川

参加者：原尾 勝（リーダー） 山口 八郎、 前田 吉彦、
近藤 裕二、 中野 直人、 木田 高広、
谷藤 哲、 小森 保敏（世話人） （敬称略）

本日のIGMに新会員が4名いらっしゃいますので、この新会員の方にロータリークラブについての意見、感想をお聞きしました。



⇒ ロータリーについては、まだよく解らない。
特に不平、不満はない。楽しくやっている。
堅苦しくないのとロータリアンは皆平等であるというのが素晴らしい。

⇒ ロータリーがよく解らないということについては、まずは、例会に無理してでも是非出席してほしい。出席すれば少しずつ解ってくる（出ないと何時まで経っても解らないままだし段々来づらくなるので・・・）。

よく解らないというのは当然のことなので、まずは、3年間は何があっても辞めないでほしい。（3年くらい経つと少し解ってくるので）

3年目位には、委員長等の主要ポストに就いてもらおうとよい。そうするとロータリアンとしての実感や責任感、絆のような仲間意識が湧いてきてロータリアンとして認めてもらえたような気持ちが湧いてくると思う。よって若い人や新人を重要ポストにドンドン登用して活性化していくべきである。

執行部がやるべきことは、新人教育プログラムを作成して（今のプログラムには無いので）ロータリーについての教育の機会を与えるべきである。年度プログラムの卓話の替わりに組み込む。また、年に3～4回程の新人教育セミナーを実施すべきである。（これは、多くのクラブで実践していますし、講師ができる人は当クラブでも沢山います）

幸い、本日、会長エレクトがみえるので次期のプログラムにこの二つを組み込んでほしい旨をお願いした。

また、新会員は親睦、会報という順になっているが、一度に沢山入ったら全員親睦というわけにはいかないのでは、これも臨機応変に対応すべきではないか？という意見があった。

次に新会員には、奉仕活動を通じて世の中に貢献する、お世話をすることで皆さんに喜んでいただける、ありがとうと言ってもらえる、そんな喜びや楽しさ、素晴らしさを実感してもらいたい。積極的に参加していただいてロータリーの良さ、ロータリーを通じでできる奉仕の素晴らしさを知っていただきたい旨の話をさせていただいた。

本日の課題である「今後のクラブのあり方について」と「会員増強・拡大について」は、時間が無くなり、じっくり討論できませんでしたが、資料を作りましたので添付致します。

2019年度 IGM 活動（資料）

令和元年 10 月 25 日(金)

都ホテル岐阜長良川 四川

1、今後のクラブの在り方について・・・ 5～10年後のクラブは？

会員の多様性 ⇒ 女性会員は何名いるか？

40歳以下の会員はいるか？

職業分類は偏ってないか？

岐阜の職業を反映したクラブか？

世界の会員の 52%が 50～69歳、22%が 70歳以上、

現会員の約 71%が現役で工作中、約 26%が定年退職者、

チェック ⇒ クラブの強みは何か、得意な事は何か・・・これをどう生かすか？

クラブの弱み、不得意は何か？

今直ぐにできる事はないか？

魅力あるクラブづくりとは何か？

◎クラブがこうありたいというビジョンを描く

⇒ 地元である地域社会に必要な（存在感のある）クラブ？

社会貢献ができているクラブ？

会員同士の親睦と絆で結ばれたクラブ

2、会員増強・拡大について

現在 39名、来月 1名入会で 40名の目途はついた。38期の目標は、4名の純増、あと 2名。（候補者は、何名かいる）

創立 40周年に 50名を目指すべきか？どうか？

⇒ どうすれば入会していただけるか？（特に若い人の場合）

1、最初の 1年間又は数年は、会費を減額する

2、若い人が関心を持つような親睦活動や同好会を設ける

入会してもらったら ⇒ 退会防止を積極的に行う

1、新人教育⇒ロータリーについてのセミナー等の実施（親睦会形式で）

2、新会員に関心がある奉仕活動を聞き、それに積極的に参加していただき、その楽しさ、貢献する喜びや素晴らしさを実感してもらう。

3、新会員とベテラン会員が交流しやすい場を設ける ⇒ 親睦交流を深めるためのお酒を飲みながらの懇親会や夜間例会を増やす。

4、奉仕活動、親睦活動、同好会活動を通じて会員同士の親睦、絆、信用、信頼を深める活動を積極的に行う。